

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878

学校はゆたかな知識を築けるか？
わたしたちは学校で学んだ知識自体を「知」であると思いついてしまおう。
しかし本当はもっと大切なことがある。知識や体験を基に、物事を多面的に見る力や考える力、そしてひらめきを生む感性を持つことだ。単なる知識を超えた。ゆたかな「知」と呼ぶたい。それは人工知能(AI)が進歩する時代の要請であらう。



2017/11/21



2017/11/21

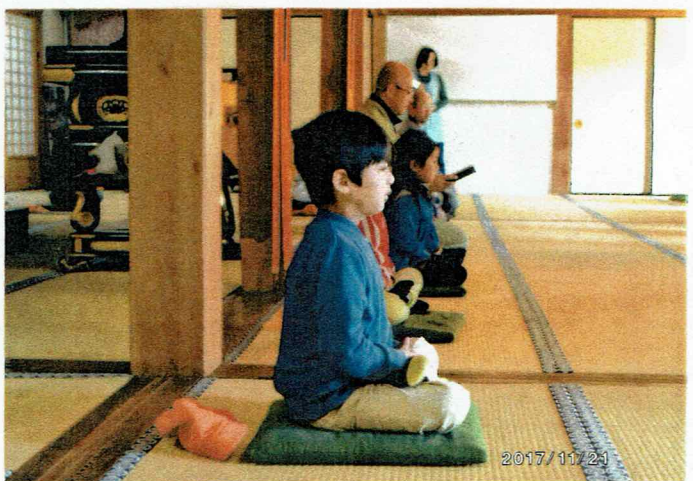
毎年11月・12月2回 2保育園で坐禅体験も実施している。洞光院の住職と一緒に撮影。あとご保育園

ただ知識をため込んだり事務をこなしたりする営みはAIに取って代わられる。たとすれば人間にしかできない仕事か刷られる。

そんな時代を前に学校教育は相まな危機感を持たねばなるまい。
2020年度から小中高校で順次導入されるこの指導要領は、教員が何を教えるかではなく児童・生徒の側に視点を移して何を学ぶかを示すこととなる。それにより何ができるようにするかを

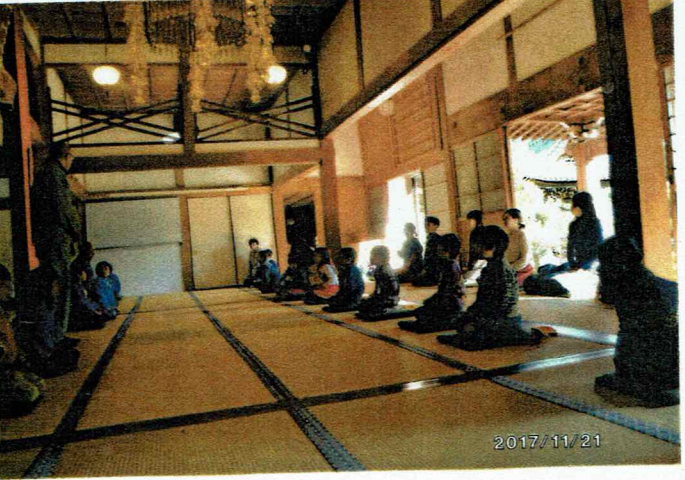
問いながら、どのように学ぶかを探るという。その手法がアクティブラーニングだ。一方通行の授業を脱却し、討論への参加や体験学習を通じて対話的・主体的で深い学びを実現する。知識だけでなく、思考力・判断力・想像力の養成をねらう。こんな理念を切りあげた指針になるはずだ。アクティブラーニングの学びは先進国を中心に普及してきたが、日本では立ち遅れていた。改革がうまくいけば柔軟な思考と感性で課題に向き合える人材の養成が進むかもしれない。

- ① 勉強する時間を決める。
- ② 勉強専用のスペースをつくらない。
- ③ 勉強道具をリボンで飾る。
- ④ 勉強道場をリボンで飾る。
- ⑤ 勉強専用のスペースをつくらない。
- ⑥ 勉強専用のスペースをつくらない。
- ⑦ 勉強専用のスペースをつくらない。
- ⑧ 勉強専用のスペースをつくらない。



2017/11/21

脳医学者が伝授する究極の勉強法。
型にハマる前に気軽に始めよう。
好きなことから始める。
かばんの中に常に勉強用の本を入れておく。
勉強する時間を決める。
勉強専用のスペースをつくらない。
勉強道具をリボンで飾る。
勉強道場をリボンで飾る。
勉強専用のスペースをつくらない。
勉強専用のスペースをつくらない。
勉強専用のスペースをつくらない。
勉強専用のスペースをつくらない。



2017/11/21